

# 過去の学部パンフレット採用作品の紹介

## (2012年度に優秀賞を受賞)

元の応募作品(2012年度)



受賞者のコメント(2012年度)

《表紙CG作品共同制作》



後藤 裕介さん  
デジタルメディア学科 2013年3月卒業  
私立朝陽学園高等学校出身

たくさんの分野を集結させることで、一つの新しい何か生まれます。私は将来、その大きな力を生み出すのに不可欠な一人になりたい。そのために技術開発や研究分野での成長を目指しています。情報科学部は、やりたいことを明確すれば応えてくれる学部です。大きく視野を広げてチャレンジすれば、きっと充実した学園生活になると思います。



酒井 健行さん  
情報科学研究科 2014年3月修了  
私立つくば開成高等学校出身

後藤さんの卒業研究「モルフォ蝶構造色の数値解析」によりシミュレーションした構造色を、私の専攻である「陰関数局面を用いたモデリング」で作成した蝶のCGに適用しました。この羽のCGを用いて、情報科学部のイメージを視覚化したデザインを行いました。

「学部/研究科での学びが活かされた作品となっていること」  
「作品に情報科学の技術が多く使われており、学びの分野を体現していること」  
などが高い評価を受けました。

ステレオペアに加工(2013年度)



ステレオペアに関する紹介文(教員作成)

表紙について「モルフォ蝶のステレオペア」

人間は、現実の立体を見たときに両眼の位置の差から右眼と左眼では異なった像が写っているのを、脳内で融合して立体として再構築します。このしくみを利用して、両眼視差が生じるような2枚の画像を並べたステレオペアを用いて、裸眼で立体視を楽しむことができます。このモルフォ蝶のステレオペアで両眼立体視に挑戦してみてください。さて、このモルフォ蝶のステレオペアを作成するにはCG技術を用いました。まず、左右の仮想視点からの見え方の違いを計算するにはベクトルや行列などの数学の知識が必要です。さらに、モルフォ蝶の羽の色を生成するには複雑な光の反射や屈折を光学や電磁気学の知識を用いて計算します。そして、これらの処理をすべて計算機上でプログラミングして実行します。

このように立体視のステレオペアを作成するだけでも多くの知識とプログラミングの力が必要です。情報科学部ではそれらすべてを学ぶことができます。

翌年は教職員の提案により、受賞した学生に引き続き協力してもらい、ステレオペア(立体視)に加工しました。これによって、学部を知る導入として、パンフレットを読む受験生が、楽しみながら学びの分野をイメージできるように工夫しました。